

2012年9月20日

福井県知事
西川一誠様

ふくいであつなごろう実行委員会
石地優

連絡先：三方上中郡若狭町気山 145-6-1
電話：090-7741-8303

大飯原発3・4号機再稼働に関する質問・要望書

日頃は私たち県民のためにご尽力を賜りまして有難うございます。

私たち「福井であつなごろう実行委員会」は大飯原発3・4号機の再稼働が、安全性の確認や、県民・国民の民意が反映されていない中で行われることに危機感を持ち集まった、県内12団体、個人の集まりです。

6月3日と17日に福井市の中央公園で集会とパレードを行いました。

知事が大飯原発3・4号機の再稼働に同意した翌日の6月17日には、県内、全国各地から2,500人を超える再稼働反対を訴える多くの人が集まりました。

「福井県民は再稼働に同意していない」ことを全員で確認しました。

大飯原発は、福島原発事故の原因究明がされておらず、大飯原発敷地内を走る破砕帯の調査や、地震、津波の影響も確認できていない、安全性が確保されていない中で再稼働しました。過酷事故対策は先送りされ、事故が起きた時の避難計画も確立できていません。

また、大飯原発3・4号機の再稼働について県民への説明会もなく、県民の疑問や不安に答える機会を、県は設けませんでした。民意が反映されていない、再稼働同意でした。

全国の前発がすべて停止したのは、福島原発事故が起きたからです。

よって前発を再稼働するかどうかについては、福島原発事故の知見を学ぶことが不可欠です。

福島県が県内全前発の廃炉を目指すとした経緯や、避難と余儀なくされた福島県民の思いなどを、県として再度福島県に行って、実情と実態の把握をすべきです。そしてそこで学んだことを県民に還元し、県民と共に前発とどう向き合うか、考え、判断すべきではないでしょうか。

政府の大飯原発再稼働決定後も続く、官邸前や関電本部前など各地での脱前発を求める行動や、国民的議論では、パブリックコメントで9割、意見聴取会で7割、討論型世論調査では5割弱の人が前発ゼロを求めています。

結果的に大飯原発の再稼働がなくても乗りきれた今夏の電力需給の中で大きな役目をしたのが節電効果でした。2010年比の11.1%の減少率という結果は、

10%目標値を上回る家庭や企業の努力のたまものでした。

国民は言葉だけでなく実践して、原発に依存しない世の中を望んだのです。

この民意は重く受けとめるべきではないでしょうか。

知事は今月6日、全国知事会の提言を細野原発事故担当相に提出した時に「原発は重要な電源という考え方を政府として揺るぎなく堅持するように」訴えたと報道されています。県民にとり原発の行方は、暮らし、雇用、生命、健康に関わる重要な問題です。しっかりとした県民的議論を行い、方向性を決めるべきです。

地震はいつ起きるかわかりません。県民の安全・安心の確保のため、少なくとも過酷事故対策や防災対策の確立ができるまでは大飯原発3・4号機は停止させ、県内の他の原発も再稼働はさせないという姿勢を持ってください。

以上のことを踏まえて、次の項目を質問・要望致します。

真摯に受けとめ、ご回答下さいますようよろしくお願い申し上げます。

質問・要望項目

1. 電力供給の安定した今、安全確保のため大飯原発3・4号機の運転停止を国に求めて下さい。
2. 大飯原発3・4号機再稼働について、県民説明会を開催して下さい。また、民意を反映させるため、原発をどうするかについて県民的議論を実施して下さい。
3. 大飯原発敷地内にあるF6破砕帯の調査二件として参加することを求めます。
4. 福井県原子力安全専門委員会に、変動地形学の専門家を入れることを求めます。
5. 今夏の電力不足を理由に大飯原発3・4号機の再稼働を実施しましたが再稼働をしなくても大丈夫だったとの結果も出ています。県としての見解を求めます。
6. 福島原発事故について、県として再度福島県に行って実情と実態の把握をし、そこで学んだことを県民に伝えることを求めます。
7. 国の防災基本計画が見直され、原発事故対策が強化されました。今の県の防災計画では事故が起きた時、嶺南の住民は嶺北に非難する計画になっています。事故が起きた原発を見ながら逃げる非現実的な計画です。また、避難道の整備もできていません。県の防災計画についての説明を求めます。そして防災計画が確立するまでは大飯原発3・4号機は停止させ、その他の原発を含めて再稼働させないことを求めます。

以上